

令和5年度 トップ1%論文表彰

| 所属 | 補職 | 氏名 | 論文名 | 学術誌名 | 発表年 | 論文の概要 | URL |
|---------------------|------|-------|--|---|------|---|---|
| 医学研究科 | 助教 | 菊池 祥平 | Determinants of left atrial reservoir and pump strain and use of atrial strain for evaluation of left ventricular filling pressure | European Heart Journal Cardiovascular Imaging | 2022 | 本研究は、心エコー図検査で評価した左房のストレイン値 (LAS) (ストレイン: 心筋の伸縮性を評価する指標) の規定因子を調べ、LASを用いて非侵襲的に左室充滿圧を推定することを検討した多施設共同研究である。心血管疾患を有する322名の患者を解析した結果、LASは左室長軸方向のストレイン値と左室充滿圧によって規定され、左室収縮障害のある患者においてLASは左室充滿圧を推定可能であることが明らかとなった。 | 研究室のHP: http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/inter3_dir/ リサーチマップ: https://researchmap.jp/svohey0111 |
| 理学研究科 | 准教授 | 三浦 均 | On the origin and evolution of the asteroid Ryugu: A comprehensive geochemical perspective | Proceedings of the Japan Academy Series B: Physical and Biological Sciences | 2022 | 本論文は、はやぶさ2ミッションがC型小惑星リュウグウから持ち帰った代表的な粒子16個の包括的分析から得られた観察と解釈を述べたものである。本研究より、リュウグウの有機物が原始太陽系星雲と星間物質の両方に起源を持つことを示す、マルチスケールのH-C-N同位体組成と矛盾しないことが発見された。今回得られた分析データは、複雑な可溶性有機物が数10 kmサイズのリュウグウ母天体内において水質変成を受けて形成されたことを示唆している。 | https://www.nsc.nagoya-cu.ac.jp/labs/miurah/ |
| 医学研究科 ^{*1} | 教授 | 森田 明理 | Trial of spesolimab for generalized pustular psoriasis | New England Journal of Medicine | 2021 | 汎発型膿疱性乾癬 (GPP) は、生命を脅かすまれな炎症性皮膚疾患であり、無菌性の膿疱が広範囲に発生することが特徴である。この疾患の病因には、インターロイキン-36シグナル伝達が関与している。本論文は、その関与について研究したものである。 | https://researchmap.jp/read0052839 |
| 医学研究科 | 特任助教 | 松本 真実 | Dual microglia effects on blood brain barrier permeability induced by systemic inflammation | Nature Communications | 2019 | 本研究では、ミクログリアが全身性の炎症に反応し、CCR5依存的に脳血管へと遊走すること、そして初期には密着結合分子Claudin-5の発現と内皮細胞への物理的接着を介して血液脳関門 (BBB) の維持に貢献し、炎症持続下ではアストロサイトの突起の貪食を介してBBBの障害に寄与することを示した。本研究はミクログリアがBBBの機能維持に2つの異なる役割を果たすことを示しており、全身性炎症が神経機能に及ぼす影響の理解に貢献すると期待される。 | — |
| 医学研究科 | 教授 | 谷田 論史 | Efficacy of Upadacitinib in a Randomized Trial of Patients With Active Ulcerative Colitis | Gastroenterology | 2020 | 中等症から重症の活動性潰瘍性大腸炎患者 (UC) に対する導入療法として、経口ヤヌスキナーゼ1選択的阻害薬であるウパダシチニブの有効性と安全性を評価した。既存治療、生物学的製剤に効果減弱、不耐を示したUC患者250名をプラセボ、ウパダシチニブ (7.5 mg, 15 mg, 30 mg, or 45 mg) に無作為に割付し、活動性疾患スコア (Adapted Mayo score) を用い、8週での寛解率、安全性を評価した。第2b相試験において、プラセボと比較し、ウパダシチニブすべての投与量において、8週投与時の寛導入効果は、有意に高いものであった。 | — |

※1 トップ1%に該当する論文が合計3本あり、その中で最もFWCIの高いものをトップ1%のカテゴリーで表彰する。残りの2本の論文は、【参考2】のとおりである。

【参考2】

| 所属 | 補職 | 氏名 | 論文名 | 学術誌名 | 発表年 | 論文の概要 | URL |
|-------|----|-------|--|--|------|--|---|
| 医学研究科 | 教授 | 森田 明理 | Deucravacitinib in Moderate to Severe Psoriasis: Clinical and Quality-of-Life Outcomes in a Phase 2 Trial | Dermatology and Therapy | 2022 | デュークラバシチニブは経口の選択的チロシンキナーゼ2阻害薬であり、中等症から重症の尋常性乾癬を有する成人を対象とした第2相臨床試験において治療効果を示した。本解析は、成人乾癬患者におけるデュークラバシチニブの臨床的およびQOL (生活の質) に対する効果を検討し、これらのアウトカム間の関係性を評価するために立案された。 | https://researchmap.jp/read0052839 |
| 医学研究科 | 教授 | 森田 明理 | Secukinumab demonstrates high efficacy and a favourable safety profile in paediatric patients with severe chronic plaque psoriasis: 52-week results from a Phase 3 double-blind randomized, controlled trial | Journal of the European Academy of Dermatology and Venereology | 2021 | セクキヌマブは、成人における様々な乾癬性疾患症状において、良好な安全性プロファイルとともに長期にわたり持続的な有効性を示している。本論文では、小児の重症慢性尋常性乾癬患者を対象に、2種類のセクキヌマブ投与レジメン [低用量 (LD) および高用量 (HD)] の1年間の有効性と安全性を報告する。 | https://researchmap.jp/read0052839 |